

W74a 全天 X 線監視装置 X 線 CCD カメラ (SSC) の現状と成果

木村公, 常深博, 北山博基 (大阪大学) 富田洋 (JAXA) 松岡勝, 杉崎睦 (理研) ほか MAXI チーム

国際宇宙ステーションに搭載された X 線全天監視装置 MAXI (Monitor of All-sky X-ray Image) は、2009 年 8 月に観測を開始した。観測から、2 年近くたった現在でも、SSC (Solid-state Slit Camera) に搭載された 32 個全ての CCD は観測開始以来正常に作動している。SSC は 0.7keV-7keV で全天を観測できるため、天体の長期モニターや広がった構造などの観測に適している。SSC で得られた、0.7keV-7keV 全天画像では百を超える点源を検出しており、点源のほかにも白鳥座付近には直径  $10^\circ$  程度に広がっている Cygnus superbubble や銀河中心方向に半径  $60^\circ$  程度に広がった Loop-I などの構造も検出している。今回の発表では SSC の状態及び、上記の広がった構造の解析結果や主要な天体についてのデータ公開についても報告する。